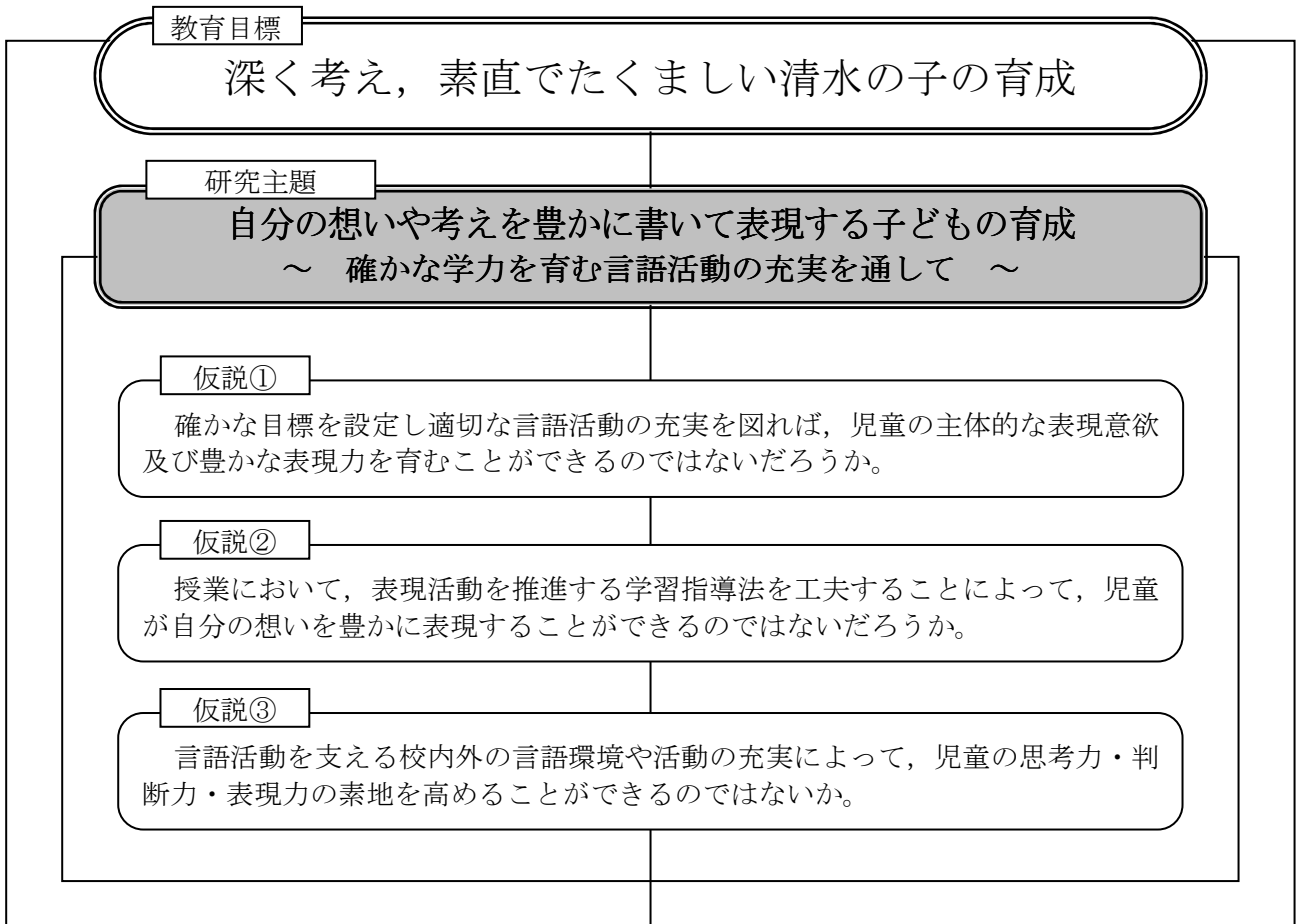


# 清水小学校 校内研修 全体計画

## 1 本年度の研究主題



## 2 研究主題設定の理由

(1) 「教育基本法」「学校教育法」等の関連法制より ～現行の学習指導要領の策定まで～

改正された「教育基本法」「学校教育法」において、わが国における公教育の理念及び具体的内容が規定されている。公教育の基本的な理念とは、教育の目的を策定し、その目的を達成するために公教育の推進主体である国及び地方公共団体が様々な手法を駆使して事業を遂行することである。具体的に言うと教育の目的とは、それは第一義的には知・徳・体の調和のとれた人格の完成であると規定することができる。

また、関連法制では児童に身に付けさせていきたい「学力」の基本的な要素が示されている。それは、①基礎的・基本的な知識・技能、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、③主体的に学習に取り組む態度、といったものである。これら3要素が「学力」を規定する主なものであることは間違いない。また②にあるように、知識・技能を活用する高度な活動を支える思考力・判断力・表現力は後述するように特に重要視されているものといってもよい。

(2) 学習指導要領より

学習指導要領全体を貫徹する重要な改善の視点としては、言語活動の充実が挙げられる。それは学習指導要領総則の中で繰り返し述べられていることから明らかである。各教科等においては思

考力・判断力・表現力を育成する観点から、基礎的・基本的な技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることに力点が置かれているのである。言語活動充実のための教委活動の展開は、どの学校でも進めなければならない事項である。

### (3) 学校教育目標・めざす子ども像より

本校の学校教育目標「深く考え、素直でたくましい清水の子の育成」で、めざす子ども像は「かしこい子ども・やさしい子ども・たくましい子ども」となっている。学校教育目標及びめざす子ども像と本校の研究主題で共通していることは、子どもの眼前で起こる事象や学習によって得られた新たな知見に対して、自分なりの考えをもつことである。換言すれば、自分の周囲で起きていることや学習対象に対して、大なる関心をもち、その関心に基づき、自らの認識を構築することであると言える。本校の研究では、さらに進めて、構築することができた自らの認識や思考、概念を他者に向けて発信（書く）して広めていくことができるような子どもの育成を目指しているのである。

### (4) 本校の実態より

全国学力学習状況調査などの各種学力検査や保護者へのアンケートなどから、自らが学習活動によって得られた知識・技能を利用した表現力（特に『書くこと』）において落ち込みが見られること、またそれが様々な分野に影響を及ぼしていることが分かった。

さらに、そうした表現力の育成に関して保護者を始めとした周囲の期待が高いこと、生徒指導上の観点からも学校生活を健やかに送る上で望ましい思考力・判断力の育成が必要になっていること、などが指摘できる。

これらの課題解決に向けて、問題の中に含まれている情報の関係に着目して、知識や経験を総合化する力（書く力）を身に付け、自分の想いや考えを周囲に伝えることで自分を取り巻く環境との良好な関係を築くようにすることが課題解決の鍵になると考えている。

## 3 研究の視点

### ① 仮説1について【主に研究を支える理論に関すること】

- 研究主題解決のための理論構築
- 「目指す子ども」像の策定
- 国語科を始めとした各教科における言語活動の在り方についての研究
- 国語科を始めとした各教科単元別指導計画への言語活動の位置づけ
- 「書くこと」に関する基礎・基本の明確化
- 他の研究推進校との交流、共同研究（市教委）の連携強化
- 実態調査の実施（児童・保護者意識調査、CRT学力検査など各種学力検査の分析）

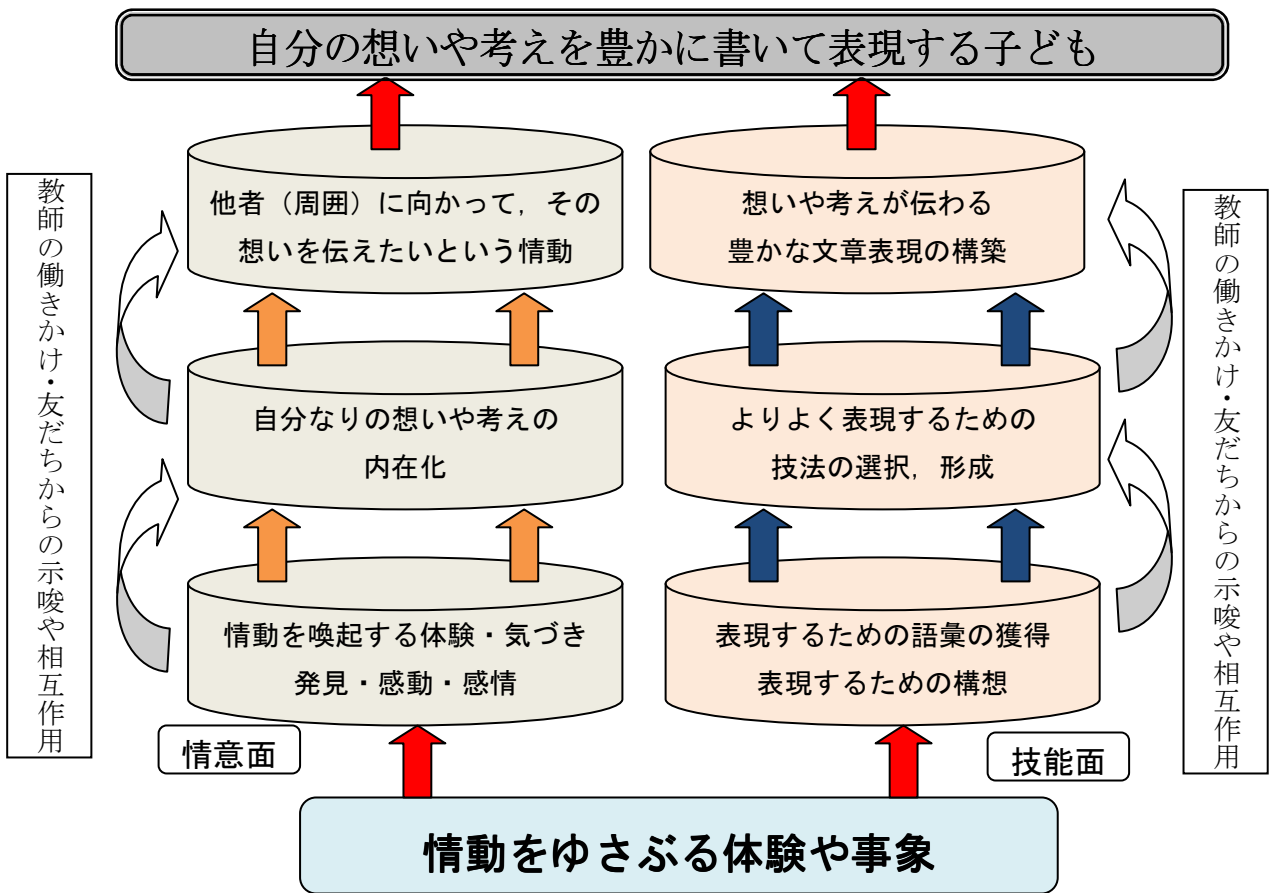
### ② 仮説2について【主に学習指導法に関すること】

- 1単位時間の基本的な指導過程
- 授業における共通実践事項の考案
- 児童の意欲喚起、豊かな表現につながる適切な助言、指導の在り方
- 学習形態・指導体制の工夫
- 児童の作品に対する評価の在り方
- 自己評価の在り方（振り返りカードの活用）
- ICT機器を活用した言語活動の推進
- 外部に向けた情報発信（HPの活用）

### ③ 仮説3について【主に言語活動を支える基礎基本・土台づくりに関すること】

- 朝活動の充実（朝自習の時間の活用）※ 国語タイム、作文タイムの創設
- 教室設営や学校の言語活動を支える国語的環境の計画と整備
- 児童の作品を生かす場の設定（成果披露、展示、各種作品展への出品など）
- 学校文集の作成
- 読書指導部との連携
- 関連図書や図書資料の提供
- 家庭との連携（家庭学習の手引き、音読カード）

#### 4 研究の全体構想図



#### 5 研究の実際

第5学年 「活動を報告する文章を書こう」（題材「次への一步 —活動報告書」光村5年）

| 過程           | 時間 | 主な学習内容                                                                                                                                                                      | 指導上の留意点 ※評価・・・（方法）                                                                                                                                                                        |
|--------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 調べる・深める・まとめる | 25 | 4 構成メモをもとに、グループで協力して下書きを書く。<br>(1) 見出しごとに文章を書く。<br>(2) グループ全員がそれぞれ書く。<br>(3) 書いたものを読み合い、共通点や差異、よさを話し合う。<br>(4) 話し合ったことをもとに表現の工夫を考えてさらに文章をまとめる。<br>(5) 自分の書いた文章が工夫できているか考える。 | ○ 表現の仕方の工夫は、「リード文」では一文は短く、「活動計画」では箇条書き、時間の経過を明らかにしながら、「今後の活動」では文末表現に留意するなど。<br>※ 表現の仕方の工夫を行って、活動報告書の下書きを書くことができる。（ノート）<br>○ 話し合い活動等、児童の活動への参加状況等に留意する。<br>○ 教科書等にある観点をもとに、表現の仕方の工夫に着目させる。 |

（研究授業の総括）

- 「書くこと」に関して、長いスパン（中学校段階まで）を考慮にいたした系統的な「書くこと」に関する技能を整理する必要がある。
- 各学年の単元を洗い出し、「書くこと」を主目標にしている単元を選定する必要がある。それを一覧にして、全体に示していくことも大切なのではないかな。